

各施設を機能的に配置した設計が安心・安全の医療空間を実現

先進医療棟は病棟や外来診療棟との一体的な運用を図るため、病棟の東、外来診療棟の北に配置されました。病棟や外来診療棟と接続する西側にエレベータや階段を集約して動線の効率化を図るとともに、患者さんや医療スタッフが多数行き交うホールなどは機動性を十分に確保する為に広いスペースを整備しました。また、大規模災害時でも病院機能の継続性を確保するために、建物には免震構造を採用しています。

4F

集中治療部

術後の患者さんを受け入れる集中治療部は手術部の上階に配置しました。

3F

手術部

中央診療棟3階の既存の手術室にあわせて手術部を3階に配置しています。

2F

病理部

材料部

術中の病理診断を行う病理部、手術用医療機器を洗浄・滅菌する材料部は手術部の下階に配置しています。

1F

高度救命救急センター

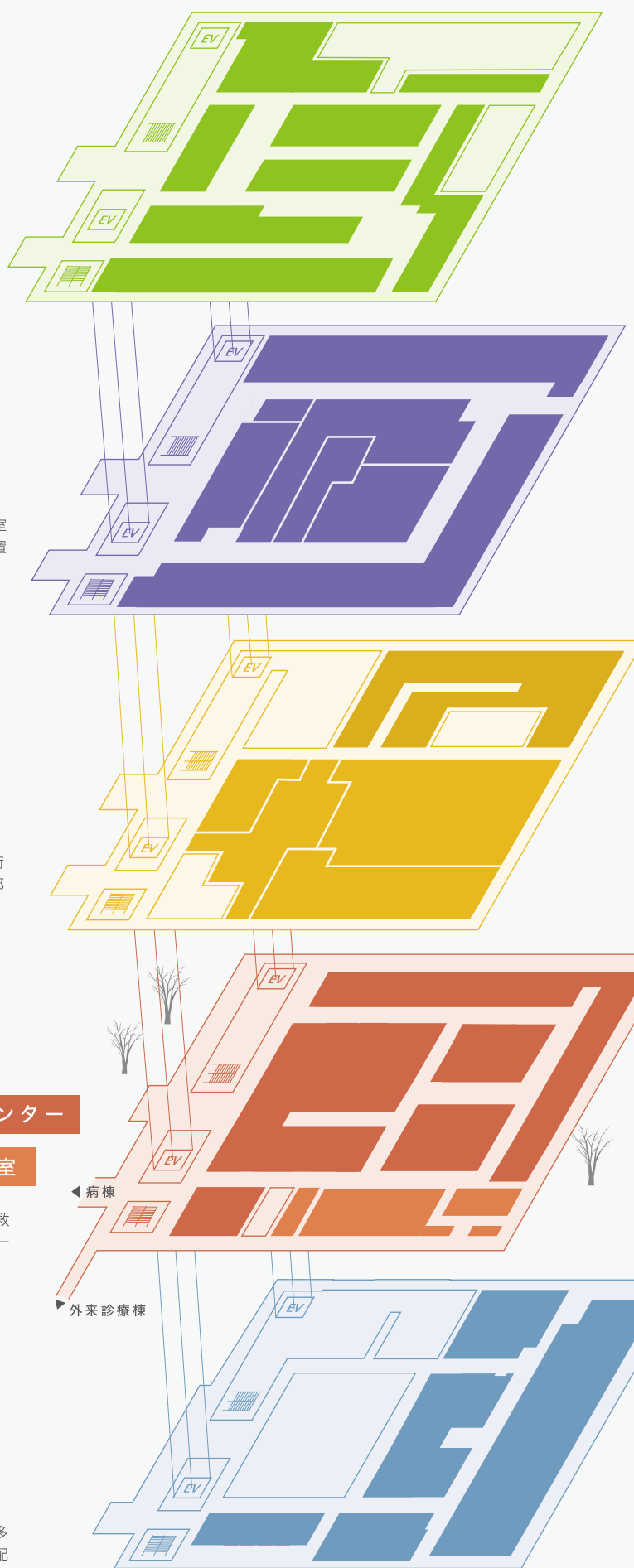
第一感染症病室

24時間患者搬送がある高度救命救急センター、専用入口が必要な第一感染症病室を配置しています。

B1F

放射線治療科

放射線治療装置など重量物の多い放射線治療部を地下1階に配置しています。



ACCESS



バス停留所  
【仙台市営バス】  
JR仙台駅バスのりば⑨⑩⑬番から乗車し「東北大学病院前」下車すぐ。  
または、⑭番から乗車し「交通局大学病院前」下車徒歩5分。  
乗車時間は約20分。

地下鉄駅  
【仙台市営地下鉄】  
仙台市営地下鉄南北線仙台駅から東中央行きに乗車し「北四番丁駅」下車後、北2出口より徒歩約10分。

各種お問い合わせ

東北大学病院  
〒980-8574 仙台市青葉区星陵町 1-1  
**TEL.022-717-7000** (代表)  
(平日 8:30-17:15)

時間外・休日  
**TEL.022-717-7024**

診療内容については各診療科・部門で承ります。

患者紹介について

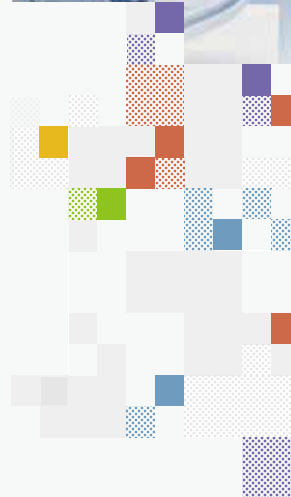
東北大学病院 地域医療連携センター  
**TEL.022-717-7131**  
(平日 8:30-17:00)  
**FAX.022-717-7132**



東北大学病院

先進医療棟

ADVANCED MEDICAL CARE CENTER



東北大学病院  
先進医療棟  
TOHOKU UNIVERSITY HOSPITAL  
ADVANCED MEDICAL CARE CENTER

人にやさしい先進医療を  
より多くの方に

東北大学病院の診療棟が新しく生まれかわりました

平成30年5月、東北大学病院に「先進医療棟」がオープンしました。  
より低侵襲で体に優しい医療、より高度で最先端の医療、  
より質の高い安全な医療というコンセプトのもと、  
これまで分散していた集中治療部、手術部、材料部、病理部、  
高度救命救急センター、放射線治療部門を  
一つの建物に集約して効率化を図るとともに、  
設備や機器を一新し、  
多様化する医療ニーズに応える環境を整えました。  
当院の基本理念である  
「患者さんに優しい医療と先進医療との調和を目指した病院」の実現に向け、  
これまで以上に地域の医療機関との連携を図り、  
より多くの方に安心・安全な高度先進医療を提供することを  
目指してまいります。





B1F

## 放射線治療科

患者さんに優しい  
高精度な  
放射線治療を提供

これまで飛び地であった放射線治療科外来と放射線治療室、放射線治療計画室を地下1Fに揃え、人的・物的効率化を図りました。放射線治療装置も一新し、東北地方では初めての導入となる高精度な呼吸同期装置 SyncTraX®（島津製作所製）と最新の放射線照射装置（Varian社製）を組み合わせ、現状で最も信頼の

る手法で最適な放射線治療が可能となります。また、細かいマルチリーフ・コリメーターを使い、頭蓋内病変の定位照射も可能です。全ての放射線治療装置が強度変調放射線治療（IMRT）に対応しており、これまでより多くの患者さんに高精度な放射線治療の提供を目指します。

3F

## 手術部

先進医療棟の中核を担う  
高難度医療に  
対応した手術室

先進医療に対応できるよう、既存（中央診療棟）の手術室の約1.2倍（50～66m<sup>2</sup>）の大きさを備えました。内視鏡手術に最適化された手術室が4室、ハイブリッド手術室1室、手術支援ロボットの使用を前提とした手術室が2室、お様が安心して手術が受けられるよう、楽しい絵が描かれた手術室もあります。

映像システムも充実させ、病理部と連携し、病理顕微鏡画像を手術室内でも見ることが可能です。新たな器材管理として、硬性小物1品1品の使用履歴が追え、手術申し込みと連動して医療器機・器材の準備支援を行える材料管理システムを導入し、材料部との連携も大幅に強化されました。

手術件数は年間10,000件を視野に捉え、今後増加が見込まれる高難度手術に対応すべく発展した手術部です。



2F

## 材料部

最新の設備と  
材料管理システムが  
医療安全の向上に寄与



最新の洗浄滅菌機器を整備したほか、10,000件以上の手術を担うための材料管理システムを整備しました。このシステムは手術準備支援だけでなく、どの患者さんにどの器機を使用したかという使用履歴や、器機の破損も履歴として残すことが可能です。これにより、ある器機は何回使用すると

壊れるという情報が一目瞭然となります。また、先進医療棟への移転により、これまでは離れた場所で稼働していた病棟外来部門材料部と手術部門材料部が一つになり、スタッフが一堂に会して業務が行え、業務の効率化や医療安全の向上が期待できます。



4F

## 集中治療部

救命のみならず  
QOL向上を  
目指す

18床のICU（集中治療室）と12床のHCU（ハイケアユニット）に分かれています。臓器移植手術、心臓・大血管手術などの術後患者、また急性呼吸不全に対する人工呼吸管理や重症心不全に対する体外循環など、高度な医療を必要とする重症例がICUの適応となります。HCUは軽度～中等度の術後患者、一般病棟では難しいモニタリングや管理が必要となる場合など、ICUと一般病棟の中間に位置する病床として運用しています。

年間で約2,300症例が入室し、術後管理、全身管理を行っています。人工呼吸期間を短縮し、早期離床やリハビリテーションを積極的に行うことで患者さんの救命のみならずQOLの向上も目指しています。

2F

## 病理部

ゲノム医療や  
遠隔病理診断に対応した  
最新設備



病理部ではISO15189に準拠した検査業務の遂行を目指し、作業効率と安全性を考慮した配置や十分な換気システムを整備しています。さらに新たなゲノム医療に対応すべく、バイオバンク用の検体処理やゲノム抽出などを行うゲノム検体処置室を新設しました。手術部との画像連携システムが新たに導入され、手

術室から術野の情報が得られるとともに、術者に病理画像を提示しながらよりの確かな術中迅速病理診断が下せるようになりました。当病理部は日本屈指の遠隔病理診断施設ですが、最先端のデジタルパソロジー機器を集約し効率化することで、さらなる発展を目指しています。

1F

## 高度救命救急センター

安全性と快適性、高い機能性を重視した  
空間デザインで救命率の向上へ



ハイブリッドER「iTUBE」



新しい高度救命救急センターには大きく3つの特徴があります。

一つ目は、目的と機能に応じたゾーニングです。救急患者の初期治療のゾーン、集中治療室の入院治療のゾーン、診療機能を支援するための資器材や医療スタッフのゾーンと、空間をしっかりと区分し、安全性と機能性を向上させました。

二つ目は、患者さんとご家族の快適さを重視した集中治療室です。プライバシーを考慮し全室を広いスペースの個室とする一方、患者さんの安全

を確保し、十分に目が届くように広いクリア面の出入口としました。

三つ目は、CT、血管造影装置と手術室機能を備えた初療室であるハイブリッドER「iTUBE」です。初期治療と同時に、移動することなくCT検査、止血のための血管内治療や手術などが可能で、「ひと」と「もの」を集約して短時間で治療をするためのスペシャルユニットです。

\*iTUBE：Integrated Tohoku University Hospital Resuscitation Bay for Emergency patients.



1F

第一種  
感染症病室

特殊構造の病室を設置し、  
一類感染症患者にも対応

平成30年5月1日、当院は宮城県から第一種感染症指定医療機関に指定されました。先進医療棟には、エボラ出血熱など一類感染症患者の診療ができる特殊な構造の感染症病室2床が設置されています。

この感染症病室の特徴は、高い気密性と特殊な空調・換気設備を有することや、病室から外へ空気が漏出

しないように陰圧制御されていること、専用の高圧蒸気滅菌器や排水処理施設が設置されていることなどが挙げられます。さらに、医師や看護師、臨床検査技師、放射線技師などからなる医療チームを編成し、特殊な防護具の着脱訓練など、定期的な訓練を実施しています。